

第2章 白岡市の文化財の概要

1 文化財の概要

(1) 指定等文化財の概要(一覧表と地図:p.143~145)

白岡市には、令和8年(2026)3月現在60件の指定等文化財があります。内訳は、国指定天然記念物1件、埼玉県指定有形文化財(彫刻)1件、埼玉県指定史跡1件、白岡市指定有形文化財32件、白岡市指定民俗文化財18件、白岡市指定記念物4件、白岡市登録有形文化財が3件です。文化財保存技術の選定はありません。

国指定天然記念物はシラコバトです。種の指定であるため、生息範囲として含まれています。

埼玉県指定有形文化財は、興善寺の木造阿弥陀如来立像です。鎌倉時代の作で、元来関西地方で製作されたものが入間市豊岡に伝わり、縁あって興善寺に安置されました。埼玉県指定史跡は下野田の一里塚です。日光御成道沿いに設けられたもので、江戸から11番目の一里塚に当たります。東西両塚が現存する県内唯一のものです。

市指定文化財の内訳を種別に着目して概観すると、有形民俗文化財が18件と多いのが特徴で、考古資料や絵画、書跡・典籍などの指定件数は少数にとどまっています。

類型別に見た市内の指定等文化財

令和8年(2026)3月現在

類 型		国指定・選定	国選択	県指定	市指定	国登録	市登録	合 計	
有形文化財	建造物	0	－	0	3	0	0	3	3
	美術工芸品	絵画	0	－	0	1	0	0	1
		彫刻	0	－	1	7	0	0	8
		書跡・典籍	0	－	0	2	0	0	2
		古文書	0	－	0	7	0	1	8
		考古資料	0	－	0	1	0	0	1
		歴史資料	0	－	0	11	0	2	13
	小 計	0	－	1	32	0	3	36	36
無形文化財		0	0	0	0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	－	0	15	0	0	15	18
	無形の民俗文化財	0	0	0	3	0	0	3	
	小 計	0	0	0	18	0	0	18	18
記念物	遺 跡	0	－	1	1	0	0	2	6
	名勝地	0	－	0	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物	1	－	0	3	0	0	4	
	小 計	1	－	1	4	0	0	6	6
文化的景観		0	－	－	－	－	－	0	0
伝統的建造物群		0	－	－	－	－	－	0	0
合 計		1	0	2	54	0	3	60	60

(2) 未指定文化財の概要

未指定の文化財は、後述する既往の調査によって把握しているものです。その多くは、昭和56年（1981）度から平成4年（1992）度まで実施した白岡町史（当時）編さん事業の成果と埼玉県あるいは、埼玉葛地区文化財担当者会（1985年発足・現埼玉県東部地区文化財担当者会）などが実施した広域調査の成果によるもので、令和8年（2026）3月現在 58,161 件を数えます。

また、有形民俗文化財の生産生業用具や生活用具、有形文化財の古文書などは、前述の調査以降、市民の皆さんからのご連絡を受け、蔵や納屋の解体などに先立つ緊急調査でご寄贈、ご寄託を受けた資料を含みます。

把握している未指定文化財

令和8年（2026）3月現在

種 別			数量	摘要
有形文化財	建造物		27	
	美術工芸品	絵 画	1	
		彫 刻	57	
		工芸品	31	
		書跡・典籍	1	
		古文書	26,053	諸家文書資料等
		考古資料	1,926	出土資料コンテナ換算
		歴史資料	7	
	小 計		28,103	
民俗文化財	有形の民俗文化財	生産生業用具	14,524	
		生活用具	13,000	
		衣 類	200	
		その他	500	
	無形の民俗文化財	芸 能	2	
		祭礼・年中行事	313	
		その他	4	食等
	小 計		28,543	
記念物	遺 跡		122	
	動物・植物・地質鉱物		1	ひこべえの森
	小 計		123	
その他	石造物		1,009	
	川・橋		63	人名、地名由来のもの等
	昔話・伝説・記憶		320	
	小 計		1,392	
合 計			58,161	

2 文化財の特徴

第1章白岡市の概要や第2章白岡市の文化財の概要を基に当市の文化財の特徴をまとめます。

(1) 文化財類型別に見た文化財の特徴

① 有形文化財

市内に所在する指定文化財のうち、有形文化財に指定されている資料は、前述の通り県指定1件、市指定29件の合計30件があります。

●建造物

指定文化財の一つに篠津久伊豆神社の本殿があります。篠津久伊豆神社は、康治元年(1142)の創建と伝えられ、鬼窪氏とのつながりの深い神社です。指定となる本殿は、ケヤキ材を用いた権現造で建立は安政5年(1858)です。木綿や紅花の間屋として財を成した地元の商人「篠川」が私財を投じ、野州(現在の栃木県)から宮大工を招いて贅を凝らした社殿彫刻を施して建てたものであること、これを地域の人々が誇りとしていることが指定の大きな根拠として挙げられています。

庄兵衛堰枠は、庄兵衛堀川の旧流路に設置された煉瓦造の堰枠です。明治40年の竣工です。「上敷免製」の刻印のある日本煉瓦深谷工場製の煉瓦を用いていること、建設に当たる経緯や図面類が残っていることのほか、煉瓦造の河川構造物が埼玉県東部地域に特徴的に残るといふ、近代化遺産、土木遺産的価値観を重視した指定であることが大きな特徴といえます。



庄兵衛堰枠（市指定）

未指定文化財として、近世の長屋門や近代の旧大山尋常高等小学校校舎や岡泉の製茶工場などが挙げられます。

●美術工芸品

絵画 指定文化財は、野牛観福寺に伝わる新井白石の肖像画があります。白石五世の孫新井成美が3幅作らせたもののうちの1幅です。戦前まで、毎年5月19日「筑後様まつり」のうちに本堂に掛けて供養していたといひます。資料的価値も高く、地域の誇りとしても重要な資料です。「正徳の治」と呼ばれる善政を敷いたことで有名な徳川家宣の政治ブレンとしての白石のイメージや、野牛村の村政運営のイメージは非常に清廉なもので、当市を象徴する文化財の1つです。

未指定文化財として、市域に存在した御鷹場の風景を描いた鷹狩絵巻が挙げられます。

彫刻 指定文化財8点はいずれも仏像です。中でも青雲寺の阿弥陀如来坐像は、平安時代末期に遡る仏像で、藤原時代後半の院政期の定朝様彫刻の特徴をよく表しています。中央仏師系の人物による造仏と考えられ、白岡市はもとより県東部を代表する平安仏です。安楽寺の薬師如来坐像や大徳寺の大日如来坐像は、室町時代に遡るもので、鎌倉街道中道沿線の中世寺院に残された資料として地域の特徴の強いものといえます。特に、大徳寺の大日如来坐像は、現在の像以上に、胎内から発見された印を結ぶ両手先が、元弘の乱にまつわる伝承を裏付ける資

料として大変重要です。

また、未指定ながら 3 軀残されている金銅仏のうち、興善寺の火災残材廃棄坑出土の如来形立像^{にょらいぎょうりゅうざう}は、平安末に遡りうる資料で、同寺の創建伝承と関わります。上野田の個人蔵の薬師如来立像は、家祖にまつわる伝承を持つものとして貴重な資料です。

さらに、篠津天王様の山車の彫刻や篠津久伊豆神社の社殿彫刻を手掛けた立川音吉（芳）の子孫である立川金禄の残した彫刻群は、地域の特徴を示す文化財の一つです。立川金禄は、家業の宮大工の傍ら朝倉彫塑塾に学び「軍鶏」などを題材とした彫刻で日展に 22 回入選を果たすなどの経歴を持ちます。仏師としても活躍し、四国金毘羅宮の隨身像やさいたま市普門院の本尊釈迦如来、市内では太田新井安楽寺の十三仏龕^{がん}、興善寺の釈迦涅槃像^{ねはん}、四天王像などを残しています。



立川金禄作「軍鶏」

書跡・典籍 指定文化財は、高岩天満神社の山岡鉄太郎墨跡^{あらいはくせきじょう}と新井白石自詠詩「贈北客」^{ほつきやくにおくる}付附鳳、成美自詠詩が挙げられます。未指定の中に、新井白石の著作『折たく柴（の記）』の写本があります。野牛の有力者の家に伝えられた資料で、伝来に関する記録は残されていないものの、領主の著作に関心を寄せて読んだであろうこと、また、非常に良好な保存状態であることはこれを大切に扱ってきたことを推測させます。

古文書 7 点の指定文化財のうち、最もまとまりのあるものは、小久喜村の名主家鬼久保家に伝えられた「鬼久保家文書」です。3,600 点余を数え、近世から近代の村の歴史を裏付ける貴重な資料です。特に年貢割付状は正保 4 年(1647)以降天保期まではほぼ完存します。

岡泉村の名主家文書「澁谷家文書」には、流量が減少した日川の流路跡を新田開拓した様子やその後の検地帳、開発地域の絵図などが残されています。

新田開発に関する古文書は、未指定ながら「富士庫家文書」を挙げることができます。18 世紀前半に町人請け新田として開発された「彦兵衛新田」の開発や検地に関する文書群で、「彦兵衛」という地名の由来にもなったものです。

古文書から各村の様子を読み解くという意味では、未指定ですが篠津村の村役人格の黒須家文書から、近世の町場として賑わいを見せた篠津村の様子をうかがうことができます。特に、木綿や紅花の問屋を営んだ商家「篠川」^{つむぎ}の紬蔵や紅花干場、元荒川から水路を引いた河岸場の様子などがわかるほか、文政 10 年(1827)の農間余業の業種や従事者数からは、33 種 124 人が従事していたことがわかります。この文書で注目されるのは、店を持たない露天商のような業態が 12 人、質屋 9 人、煮商居酒屋 8 人のあと、機織、綿布売買 7 人、綿打 6 人と続くことです。2 軒記録されている紺屋と合わせ、埼玉郡域の代表的産物「木綿」に関する職業が 15 人いたことが読み取れます。近隣他村に比べ倍以上の村高があり、日光街道粕壁宿（現在の春日部市）と中山道鴻巣宿（現在の鴻巣市）とを結ぶ脇往還沿いに位置し、元荒川の水運にも恵まれた篠津の隆盛を伝える文書群です。

また、高岩忠恩寺に伝えられた「忠恩寺文書」は、点数は少ないものの、「太田資正棟別免許」^{おたすけまさむなべちめんきよ}

状」^{じょう}「高岩山由来（近世の写し）」など中世の状況を伝える資料が残されていることは非常に重要です。鎌倉街道沿いの古刹ならではの資料といえます。

考古資料 指定文化財の1件は、白岡地区にあるタタラ山遺跡からの出土遺物群で、縄文時代前期初頭の花積下層式期の土器9点、石器25点、石製装飾品58点からなります。花積下層式期の大規模集落遺跡自体が稀で、文化内容を物語る資料が非常に少ない中で、全体像のわかる土器やバラエティに富んだ石器が得られたこと、何より豊富な石製装飾品群の出土は非常に貴重であるといえます。入耕地遺跡1号住居跡出土の五領式土器のセットや清左衛門遺跡の縄文時代晩期の墓坑群から出土した一括資料群などは、その当時の文化内容を物語る良好な出土資料です。



清左衛門遺跡の墓坑群出土の土器群

歴史資料 指定文化財は10件あります。筆頭は、白岡八幡宮に伝えられる「鬼窪八幡宮^{わにくち}鰐口」です。「武州寄西郡鬼窪八幡宮鰐口」という銘文に加え「享徳五年」という年号は非常に重要です。享徳は3年で改元され康正に替わります。実際は康正2年（1456）のはずです。しかし改元を受け入れず享徳を使い続けた勢力がいました。鎌倉公方を支持する勢力です。享徳五年銘の鰐口は、このとき鬼窪氏が鎌倉公方に組していたことを示す資料です。

実ケ谷の阿弥陀三尊種子板石塔婆と興善寺の中世石造物群は、ともに13世紀に遡る板石塔婆で、武蔵武士の足跡を示す重要な資料です。

また、上野田の名主家に残された鷹場^{おとらえかいば}関係資料群は、鷹場（御捉飼場）の管理に際して領主である一橋家から火縄銃（短筒）を借受ける背景や鑑札などがセットで鉄砲とともに残されています。幕末の村方の様子が垣間見える興味深い史料です。

② 民俗文化財

民俗文化財のうち、有形の民俗文化財は市指定文化財が15件あります。また、無形の民俗文化財は市指定文化財が3件あります。

●有形の民俗文化財

篠津天王様の^{だし}山車5台と篠津天王様の神輿はこの地域の夏祭りとして普遍的に行われる「天王様」行事に用いられるものです。山車を持っている地区は、篠津と岡泉の2地区です。特に篠津天王様の山車は、豪華な彫刻の施されたもので、篠津久伊豆神社の社殿彫刻とともに木綿や紅花を商った豪商「篠川」が資金提供し、同じ宮大工集団を使って彫らせたものと伝えられています。篠津の各耕地に伝えられる5台



正傳寺開山様の奉納小絵馬群

の山車は、地域のシンボルとしてしっかりと根ざしています。

有形の民俗文化財の一つとして、神社に奉納された大絵馬群を挙げることができます。既指定の資料群として、柴山諏訪八幡神社の奉納絵馬群、下大崎住吉神社の奉納絵馬群、高岩天満神社の奉納絵馬群があります。また、未指定のものとして篠津久伊豆神社の奉納絵馬群が挙げられます。人々の信仰という視点でみると白岡の石神社の奉納しゃもじ群、上野田の正傳寺開山様の奉納小絵馬群などがあります。人々の祈りの象徴として残された絵馬などは地域の伝統を受け継ぐ大切な文化財です。

●無形の民俗文化財

指定文化財は 3 件あります。一つは小久喜の獅子舞です。「小久喜のささら」として親しまれています。現在のさいたま市深作^{ふかきく}から江戸時代後期に伝えられた 3 頭立ちの獅子舞で、もともと旧暦 9 月に豊作御礼として舞われ、村廻りも行われていたようです。現在は 4 月に予祝行事として奉納されており、村廻りは行われていません。演目は「初手庭^{しよてにわ}」「中庭^{へいがかり}」「幣掛・鶴の巣籠^{きとう}もりの舞（女獅子隠し）」「注連古喜・鶴の巣籠もりの舞」などがあり、神社拝殿前では祈祷獅子が奉納されます。また、この獅子舞は、奉納すると雨が降ると言われ「泣きざさら」と呼んで、雨乞いに使われた記録も残されています。市立南小学校では、郷土文化研究クラブの児童が保存会の方々の指導を受けています。毎年春になると「今年のささらはいつだ？」といった声が聞かれるほどです。

未指定文化財として、篠津天王様や柴山天王様の祭り囃子、神社の祭礼、年中行事などが挙げられます。市域の沼地を耕作する方法として「掘り上げ田」という手法が用いられました。これは、浅い沼の底に溝を掘り、掘り上げた土砂を高く積んで陸を作り耕地とするもので、細長い耕地と掘り潰れといわれる水路が交互に形成される低地ならではの耕作手法です。その他、地域独自の食に関する文化等もあげられます。

③ 記念物

市には、県指定史跡 1 件、市指定史跡 1 件、国指定天然記念物 1 件、市指定天然記念物 3 件があります。

●遺跡

県指定史跡は、日光御成道下野田一里塚です。東西両塚が残るもので、江戸から 11 番目の一里塚に当たります。西塚の塚上にはエノキの古木が聳えます。東塚のエノキは枯死し、現在はムクノキが植えられています。日光御成道は鎌倉街道中道を基に整備されたものといい、鎌倉街道に比定される道筋が西側を通っています。日光御成道は、現在は県道さいたま幸手線に姿を変え杉並木も失われましたが、一里塚は昔のままの姿で残されています。

市指定史跡は、正福院貝塚です。本貝塚は、点在する窪みに貝や土器などが充填された地点貝塚で、正福院の墓地にあり、かつては破碎貝の分布が 5～6 か所確認できました。貝塚部分の発掘調査が行われていないため、明確な時期決定ができませんが、正福院本堂の建替えに伴う発掘調査の結果、縄文時代前期黒浜式期の住居跡 2 軒が確認されていますので、これに近い時期のものと思われます。周辺では、茶屋遺跡、白岡東遺跡、神山遺跡などでも貝が出たという話が聞かれ、蓮田市黒浜付近から続く地点貝塚の北限を示す貴重な貝塚群であるといえます。現在の元荒川に沿って「海」が入り込んでいた頃から、人々は水の恩恵を享受していたことがうかがわれる遺跡です。

市域には、令和8年（2026）3月現在、86か所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が確認されています。市域に人々の暮らしの痕跡が残されるようになるのは、旧石器時代後期のことです。縄文時代以降、多くの集落が作られその痕跡が遺跡として残されています。

時期別に見ると、旧石器時代の遺跡が5遺跡であるのに対し縄文時代を含む遺跡は、76あり、多くの遺跡で縄文時代の人々の暮らしの痕跡が見つかります。一方、弥生時代の遺跡は現在のところ一つも見つかっていません。古墳時代の遺跡は延べ19ありますが、前期に集中する傾向が見られることや、高塚の墳墓である「古墳」は1基も見つかっていないなどの特徴があります。その後、奈良時代の遺跡は13、平安時代の遺跡は19確認されており、中世の遺跡は27を数えます。中世の遺跡が多いことも白岡の特徴の1つといえます。

市内の時期別遺跡数一覧表（遺跡の一覧表と地図：p.146～149）

旧石器 時代	縄文時代						弥生 時代	古墳時代			奈良 時代	平安 時代	中世
	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期		前期	中期	後期			
5	3	19	22	56	43	11	0	16	1	2	13	19	27

*多くの遺跡で複数の時期の生活の痕跡が残されています。このような遺跡を複合遺跡といいます。
このため、遺跡数の合計は、86を大きく上回るようになります。

市域で最も多くの遺跡が形成される縄文時代の代表的な遺跡をいくつか概観しましょう。

まず、縄文時代前期初頭のタタラ山遺跡の様子を紹介します。約6,000年前の拠点となる集落遺跡で、現在の元荒川の形成した谷を足下に臨む台地上に展開しています。これまでの発掘調査で、80軒にのぼる住居跡が見つっています。東海地方や東北地方からもたらされた土器や石器も出土しており、川筋を使った盛んな交流交易を示します。豊富な出土品の中には、石で作った耳飾りやペンダントが60点近くあり注目されます。特に、鳥や動物をかたどったと思われるペンダントは秀逸です。出土品の一部は市指定文化財にも指定されています。

縄文時代中期から晩期にかけての大集落に清左衛門遺跡があります。これまでに100軒を超える住居跡が見つかり、縄文時代中期から晩期にかけて少しずつ場所を変えながら長期間にわたって集落が営まれ続けた、市内を代表する縄文時代の遺跡の1つです。特に後期の後半から晩期の前半の時期は、「大日沼の谷」に面して木組みの水場遺構を作り、トチやクルミ、クリなどを加工したと思われる痕跡が残されています。

また、台地上に残された土坑内貝塚から、ニホンジカやイノシシなどの獣骨やイヌの犬歯で作ったペンダントなどの装身具も出土しています。水場遺構周辺で採取した土壌や貝塚内の堆積物などを分析することで、周辺の当時の植生や魚介類の生息環境などを知ることができました。



清左衛門遺跡1号水場遺構

●動物・植物・地質鉱物

国指定の1件は種の指定を受けているシラコバトです。近年激減しており、平成28年の調査では残念ながら確認できませんでしたが、爪田ヶ谷に隣接する民間動物公園で一定数の生息が確認されており、市域の東部への飛来の蓋然性は高いといえます。

市指定の3件はいずれも樹木です。白岡八幡宮のカヤは八幡宮の社叢^{しゃそう}の一角を占めるもので、樹齢500年と推定されるものですので、鬼窪氏の活躍を見ていたかもしれません。また、八幡宮の参道に、「八幡太郎義家駒つなぎの杉」といわれる巨木の根株が残っています。この根株は『新編武蔵風土記稿』の八幡宮の挿絵にも描かれています。

未指定文化財として、彦兵衛地区に広がる「ひこべえの森」が挙げられます。

④ その他の文化財

いわゆる文化財6類型に含まれないものの中にも、地域に深く根ざした様々な物（モノ）・事（コト）・所（トコロ）などがあります。こうしたものも後世に残すべき文化財といえます。

●石造物

庚申塔などに併設されることの多い道しるべから「慈恩寺みち」「幸手みち」「原市みち」「菖蒲みち」「鴻巣みち」などの名称が読み取れます。道については、「のよみち」「鎌倉街道」「御成みち」などの名称が語り継がれています。特に言い伝えの残る二筋の鎌倉街道は、いずれも中世の白岡の歴史を紐解くうえで大変重要な位置を占めますし、「のよみち」は、武蔵七党の野与党鬼窪氏と篠津との関係を今に伝えるものとして大切にしたい名称です。

●川・橋

市内には、大小合わせると29の河川が認められます。「備前堀川」「姫宮落川」「庄兵衛堀川」「隼人堀川」「野牛高岩落川」「新堀」「見沼代用水」「上田用水」「笠原沼用水」「黒沼用水」などです。これらの用排水路には、人名が付されたものや地名が付されたものなどがあります。「備前堀川」の備前は伊奈備前守から、「姫宮落川」は通称金兵衛堀川とも呼ばれ、大河内金兵衛の名をとったものといわれています。「笠原沼用水」「黒沼用水」は代替水路を残して干拓された沼地の名前が冠されています。

これらの水路にかけられた橋についてみてみましょう。「義理橋」「往還橋」（岡泉）「六兵衛橋」（太田新井）「鷹匠橋」（白岡・野牛）「金剛寺橋」（白岡）「陣屋前橋」（荒井新田）など、伝承とともに名称が伝えられる橋があ

左
せうぶ道
（しょうぶ）

願主

新山白茶
岡岡村屋
田組講中



道しるべ（通称：塚の越の庚申様）



隼人堀川（六兵衛橋から）

ります。隼人堀川に架かる「義理橋」は、将軍の日光社参の折に、地元の村役人たちが、将軍の行列を鹿室村境^{かなむろ}で出迎え、裏道から先回りして「義理橋」を通過して上野田村境まで見送って義理を果たしたという言い伝えからその名が付いたといわれています。白岡の「鷹匠橋」は、磯川という川に架かっていた橋で、殿様の鷹狩りに随行する鷹匠の便を図って架けられた橋だといわれています。

●昔話・伝説・記憶

生活の中での様々な言い伝えなども後世に伝えたい大切な文化財として挙げられます。

一例を挙げますと、お天気にかかわる言い伝えに「富士南（南西）に入道雲が出ると三把稲（三把の稲を刈り終わらないうちに夕立になる）」とか「北鳴りは雨が少ない（北から来る雷は、音はするが雨は少ない）」、また「妙本寺（東隣の宮代町）の鐘が近くに聞こえると天気が悪く、東北線（現 JR 宇都宮線）の汽車の音（西方）が近くに聞こえると天気がよくなる」なども面白い言い伝えです。

(2) 時期別に見た文化財の特徴

① 原始・古代

旧石器時代から奈良・平安時代までの様相を概観し、市内の遺跡から見える文化財の特徴をまとめてみましょう。

市内には、現在 86 か所の遺跡が確認されています。その多くが複数の時期が重複している「複合遺跡」です。これを時期別に見ると、一番多いのは縄文時代中期の 56 遺跡、ついで後期の 43 遺跡、以下前期 22 遺跡、早期 19 遺跡、平安時代 19 遺跡、古墳時代前期 16 遺跡、奈良時代 13 遺跡などと続き、弥生時代は 0 遺跡です。縄文時代中期が多く、近隣でも似たような傾向を示します。遺跡の継続期間を考え合わせると、縄文時代早期から前期、中期から後期、古墳時代後期から平安時代というグループが目立ちます。

次に特徴的な遺跡を見てみます。縄文時代早期から前期では、この時期の拠点となる集落遺跡としてタタラ山遺跡が挙げられます。これまでに 70 軒に上るこの時期の住居跡が確認されています。現在の元荒川沿いを通る道を使った人々の交流や物資の流通の中継基地のような集落と思われます。東海地方の木島式土器^{きじましき}や北東北の縄文尖底系土器群^{じょうもんせんていけい}、有孔磨製石斧^{ゆうこう}など、外来の遺物が多数見つかることもその証の一つでしょう。これまでに 60 点近く出土している石製装飾品の石材も外部から持ち込まれたものです。しかし、貝塚は形成されておらず、この時期には、元荒川筋の海進が進んでおらず貝塚が形成されるほど貝の採取が行われる環境ではなかったことがわかります。

続く縄文時代中期から後期にかけての特徴は、市内の中期遺跡のほとんどが中期の終わりから形成され後期につながることです。具体的には加曾利 E III 式期^{かそり いーさん}から後期堀之内 1 式期^{ほりのうち}にピークを迎えます。この傾向が強い遺跡は、大山地区の皿沼遺跡、白岡支台では山遺跡、慈恩寺支台では下小笠原遺跡や本田下遺跡などです。もう少し継続期間が長く晩期まで集落形成が認められるのが、白岡支台では入耕地遺跡や前田遺跡、慈恩寺支台では清左衛門遺跡などです。中でも、入耕地遺跡や前田遺跡、清左衛門遺跡などでは、「環状盛土^{かんじょうもりど}」といわれる盛土や盛土内側への人工的な窪地の造成などが見られます。また、これらの遺跡は、湧き水などを巧みに取り込んだ水場を持っていることが多く、水場を使った食料加工等が行われていたことがわかってきました。

さて、市内では、弥生時代の遺跡と古墳時代の高塚墳墓であるいわゆる「古墳」は確認されていません。これも当市の原始・古代の特徴といえます。

しかし、古墳時代前期の集落はいくつも確認されており、他の地域同様水田耕作が始まっていたものと推定されます。古墳時代の中期にはいったん集落形成が少なくなります。後期以降、平安時代まで集落が継続する遺跡が現れます。篠津の中妻遺跡は好例です。6世紀に集落形成が始まり、9世紀まで継続しています。おそらく10世紀以降も集落は営まれ続け、中世へ続きます。中妻遺跡では、発掘調査によって8世紀半ばの鍛冶工房跡が検出されています。この工房跡で、鍛冶炉や排滓坑^{※1}などが見つかっており、鉄生産に関わる集落であることがわかっています。



鬼窪尾張繁政館跡の木炭窯跡

市内で鉄生産に関わる遺跡は、このほか白岡地区のタタラ山遺跡、山遺跡、鬼窪尾張繁政館跡、沖山西遺跡、宮山遺跡などが挙げられます。タタラ山遺跡は、中妻遺跡と並んで大口径の羽口が出土しており、付近に製鉄炉^{※2}が存在することをうかがわせます。山遺跡、南鬼窪氏館跡、沖山西遺跡は、古代に遡る木炭窯跡が確認されており燃料炭の供給地であったと推測されます。宮山遺跡は調査例がなく時期判断が難しいところです。

② 中世

考古学的に見ると、中世の遺構や遺物の見つかった遺跡は27遺跡あり、時期別の数値の比較では、縄文時代後期に次ぐ数となります。これに、中世館跡や中世寺院、石造物所在地などを加えると数字はさらに増加します。

まず中世遺跡の状況ですが、白岡支台では、入耕地館跡を含む入耕地遺跡、地下式坑や掘立柱建物を検出した正福院貝塚、興善寺の所在する神山興善寺遺跡、篠津久伊豆神社のお膝元である中妻遺跡など枚挙にいとまがありません。慈恩寺支台でも、中世墓坑群を検出した本田下遺跡、大徳寺を擁する赤砂利遺跡、清左衛門遺跡でも鎌倉街道の道路跡と思われる遺構が検出されています。

これに中世寺院12寺（中世遺跡での例示を含む）、中世神社4社、中世館跡8（伝承地を含む）などを合わせると濃密な分布域が浮かび上がります。

中世の白岡の歴史や文化財を見ていく上で欠かすことのできない、中世起源の寺社や城館跡について確認しておきます。

市内の中世起源の寺社は、大徳寺を含む鎌倉街道中道沿いと篠津久伊豆神社から白岡八幡宮にかけての白岡支台の西縁部に集中する傾向があります。

鎌倉街道中道沿いに、胎内に応仁2年（1468）の修理銘のある薬師如来が安置されている

※1：製鉄の工程で出る溶けた不純物の塊を「鉄滓」と呼び、これを廃棄した穴を排滓坑と言う。

※2：工房内に設けられ精錬や鉄器製作を行う鍛冶炉に対し、原料から鉄を精製する製錬を行う炉を製鉄炉と呼ぶ。

太田新井の安楽寺、前述の元弘の乱に係る伝承を持つ上野田の大徳寺、開基を岩付（槻）城主太田（北条）氏房と伝える正傳寺、渋江兼重の開基で、岩付（槻）太田氏の庇護を受けたことを伝える高岩の忠恩寺などがあります。

篠津・白岡地区に、康治元年（1142）の創建と伝える篠津久伊豆神社、文亀2年（1502）季雲永岳中興開山、菖蒲城主佐々木氏綱中興開基と伝える興善寺、天文17年（1548）の北条綱繁寄進状があったという白岡八幡宮別当寺正福院、頼朝の命により鬼窪某が社殿を造営したと伝える白岡八幡宮などが並びます。

前者は、慈恩寺支台を縦貫する鎌倉街道中道を軸とした交通に関わる寺社群、後者は白岡支台に拠点を構えた鬼窪氏にかかわる寺社群とすることができるとでしょう。

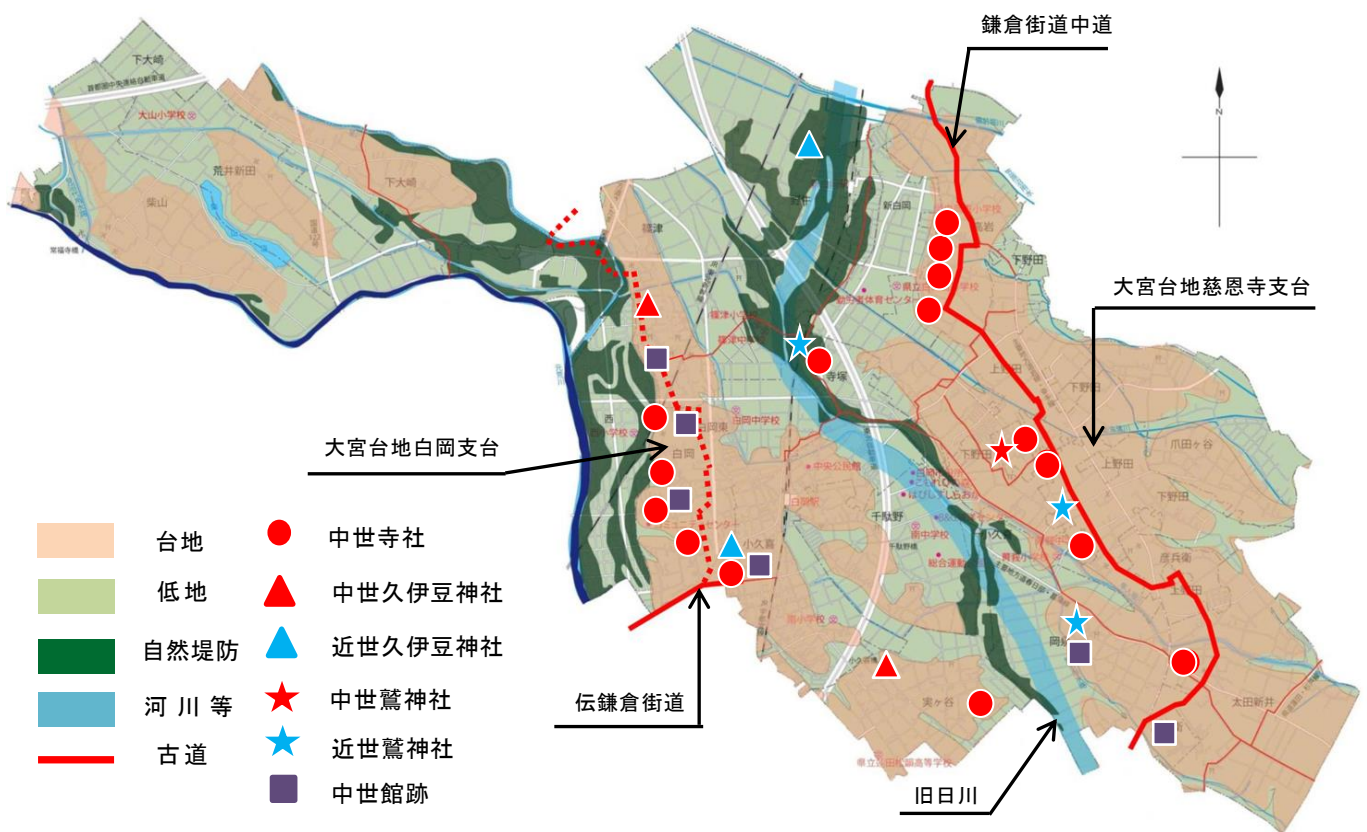
大宮台地の白岡支台と慈恩寺支台を隔てていたのが「日川」です。日川は、古代末期から中世に非常に重要な役割を果たした河川で、古代埼玉郡を東西に区分する境界線であったことがわかっています。この領域分けが中世以降の、埼玉西領*（日川以西）、と太田荘（日川以東）となりました。このため、日川を挟んで、祀られる神社も異なります。

中世以前の創建と伝わる神社

字名	寺社名	創建年代	摘要
実ヶ谷	久伊豆神社	嘉吉元年(1441)	県指定聖天院鰐口(応仁2年・1468)が奉納された神社。
	東光院	天文年間(1532～54)	当山派修験。
小久喜	寿楽院	元亀2年(1571)	鬼窪尾張繁政開基。
上野田	鷲神社 (高祖明神社)		天文23年(1554)銘の鰐口があったと伝えられる(『新編武蔵風土記稿』)。
	大徳寺	永正9年(1512)再建	元弘の乱に係る伝承を持つことから、これ以前からあった寺と思われる。
	大光院(廃寺)	天文2年(1533)	当山派修験。
	正傳寺		開基岩付(槻)城主太田(北条)氏房。
太田新井	安楽寺		薬師如来の体内に応仁2年(1468)の修理銘がある。
篠津	久伊豆神社	康治元年(1142)	『新編武蔵風土記稿』、『武蔵国郡村誌』では確認できず。
高岩	天満神社	応永32年(1425)	泉蔵院住職寂元によりもたらされた菅公の画像を祀り氏神とする(『社寺堂庵明細帳』)。
	泉蔵院(廃寺)		住職寂元、応永31年(1424)菅公の画像を入手天満神社に祀る。
	勢光寺(廃寺)		開山円竜、天文21年(1552)入寂と伝える。
	忠恩寺	天喜2年(1054)	開基渋江兼重、岩付(槻)太田氏の庇護を受ける。
寺塚	東照寺(廃寺)		開山周東は延徳元年(1489)入寂。
白岡	八幡宮	建久6年(1195)	頼朝の命により鬼窪某社殿造営、鬼窪八幡宮鰐口(享徳5・康正2・1456)あり。
	正福院	嘉祥2年(849)	慈覚大師円仁草創という。天文17年(1548)北条綱繁からの寄進状があったという。白岡八幡宮別当寺。
	興善寺	嘉祥2年(849)	慈覚大師円仁草創という。文亀2年(1502)季雲永岳曹洞宗に改宗。中興開基菖蒲城主佐々木氏綱。

中世城館跡

字名	城館跡(遺跡)名	年代	摘要
岡泉	丸山遺跡	中世	「丸山城」の伝承あり。関連遺構の確認例なし。
太田新井	太田神社遺跡	中世	「太田陣屋」の伝承あり。堀跡確認。
小久喜	鬼窪尾張繁政館跡	16世紀	鬼窪尾張繁政館跡。堀跡、建物跡等確認。
篠津	中妻遺跡	14～15世紀	堀跡、建物跡等確認。
白岡	神山興善寺遺跡	15～16世紀	溝跡確認。
	入耕地館跡(入耕地遺跡)	14～15世紀	堀跡、建物跡等確認。白岡八幡宮、正福院を取り込む規模である可能性あり。



中世起源の寺社・城館跡等

古手の板石塔婆を確認すると、指定文化財の2件のほか、紀年銘のある13世紀の資料では、岡泉丸山共同墓地の資料(阿弥陀一尊と思われるが紀年銘上部で欠損)が弘安9年(1286)、入耕地遺跡第13地点出土資料(阿弥陀三尊種子)が正応2年(1289)の銘を持ちます。また、紀

* 埼西領：中世では「埼西」「寄西」「私市」などの表記が見られるが、近世になると「騎西」と表記されることが多い。

年銘は読み取れませんが、篠津弁財天の板石塔婆もその形状から初発期またはこれに近い時期のものと思われます。

中世起源の仏像や金石資料についてです。大山地区に、南北朝時代と思われる小金銅仏が1軀あります。白岡支台では、興善寺の達磨大師坐像と市内での伝世資料ではありませんが県指定資料の阿弥陀如来立像、白岡八幡宮の鬼窪八幡宮鰐口が挙げられます。慈恩寺支台に安樂寺の薬師如来坐像と大徳寺の大日如来坐像、上野田の小金銅仏があります。現存しませんが、上野田の高祖明神社(鷲神社)に天文年間(1532~1555)の銘を持つ鰐口があったといえます(『新編武蔵風土記稿』)。

中世文書の現存資料として、野牛大久保家文書の北条氏繁判物と、忠恩寺文書の太田資正棟別免許状の2点があります。写しとして忠恩寺文書の高岩山由来と上野田大徳寺の大徳寺縁起、正福院の北条氏繁寄進状(武州文書・国立公文書館)があります。

③ 近世

近世以降の資料は、それ以前に比べると豊富にあります。古文書などを中心に考えますと、大山地区は、柴山と荒井新田に柴山沼やその周辺の治水等をめぐる争論の裁許絵図が残されています。白岡支台は、旧白岡村の近世文書が充実しています。名主家、村役人格の家に伝わる古文書群で、「白岡村新宿村水除堤争論裁許絵図」「白岡村小久喜村千駄野村水口争論裁許絵図」など排水対策に関する争論の裁許絵図などは重要な史料です。興善寺に伝えられる朱印状群なども、古刹たる所以を示す史料です。村政を物語る資料として、小久喜村の名主家文書「鬼久保家文書」が重要です。水害などの災害に関して年貢の減免を願い出たり、日光道中や中山道への加助郷免除を願い出たりする史料が目につきます。

慈恩寺支台は、上野田の名主家文書「濱田家文書」や岡泉の名主家文書「澁谷家文書」など、まとまった史料群があります。澁谷家文書は、日川堤の修繕にかかる史料や山城堀の排水に関わる争論に関する文書などが重要です。濱田家文書は、御鷹場域内ならではの史料や御成道沿いの整備に関する史料などが重要です。

人々の暮らしに関する資料は、絵馬などに見られる信仰のほか、庚申講や稻荷講などの「講」に関する史料が散見されます。また、小久喜の獅子舞では、「獅子連中例記」という獅子舞伝承や運営にかかる史料なども残されています。

また、金石文にも様々な情報が残されています。前述の庚申講の講中で立てた庚申塔や月待講で立てた二十三夜塔などのほか、様々な供養塔や記念碑の類などに、村方の様々な情報が刻まれているものがあります。例えば篠津久伊豆神社にある「知足壺神ちそくれいしんのひ之碑」は、領主である旗本徳永氏とのかかわりや名主角右衛門の伝説が記されています。また、篠津の青雲



白岡村新宿村水除堤争論裁許絵図(細井家文書)

寺にある「菱沼溪斎翁墓碣銘」^{ひしぬまけいさい}には、篠津村の名主菱沼次兵衛が行った、荒川、星川の治水対策や農地改良などの事績が記されています。これらは、地域にとって重要な内容を伝えています。

④ 近代以降

近代以降の文化財として考えられるものとして、産業や交通の発達に関するものや、自治体や自治体の合併に関するものなどが挙げられます。

まず、交通についてですが、明治18年(1885)に現在のJR宇都宮線が開通します。当初白岡には「信号所」が設けられました。白岡駅開設の陳情は明治30年代から繰り返し行われますがなかなか実現せず、明治43年(1910)2月ようやく設置されます。これらの経緯は「鬼久保家文書」から読み解くことができます。開業を記念して中島撫山が撰文し、白岡駅近くに建てられた記念碑「新設白岡車站之記」から、当時の白岡周辺の産業の様子、人々の暮らしぶり、気風などの情報を読み取ることができます。

産業に関するものとして、農業関係では、「耕地整理記念之碑」(千駄野稻荷神社)や「柴山伏越改造之碑」(柴山伏越)「長寿園記」(爪田ケ谷観音堂)「南埼乾繭組合記念碑」^{かんけん}(白岡八幡公園)などがあります。このうち、「長寿園記」は製茶業を営み、国内外に広く埼玉茶を普及した斎藤長蔵翁の事績を記したもの、「南埼乾繭組合記念碑」は、昭和初期からの白岡近郷での養蚕業の振興にかかる内容が記されています。

また、岡泉の澁谷家文書には、日勝村長を務めた澁谷塊一が推進した「日勝村経済更生運動」関係の史料群が残されています。澁谷は、昭和5年(1930)、「埼宝」という品種のスイカを那須御用邸で昭和天皇に献上しています。「西瓜乃栗」という史料には、「形状ハ小サキ長円形ヲナシ、果皮ハ線状網文ニシテ果肉ハ橙黄色ヲ呈し、風味極メテ淡白上品ナリ」というスイカの特徴が示され、特産品開発に熱心に取り組んでいた様子がうかがえます。

日勝村は、昭和7年(1932)農業経営改善5か年計画を策定し、大山村とともに県の「経済更生運動推進村」の指定を受けます。日勝村では、耕地整理組合が設立され、沖山地区や日勝村西部などで耕地整理や開墾などが推し進められていきますが、日中戦争に向かっていく中で、「埼宝」を高級果物として定着させようとした目論見は実を結ばなかったようです。

市内で広く栽培される梨は、明治43年(1910)の大水を契機に作付面積を増やしていきました。特に、関東造盆地運動の影響を受け、ローム台地上ながら土地が低い大山地区では、皿沼や柴山沼を擁し地下水位が高いことを利点に替え、みずみずしい梨がとれることを活かして販路を拡大していきました。栽培品種の変遷や栽培用具の変遷、運搬具の変遷、また、共同選果などの組織の変遷など様々な内容の物語が伝えられています。

明治43年(1910)の大水は、生活史の中にも大きな影響を与えて



竹籠に入った西瓜「埼宝」

います。大山地区では、柴山沼を囲む屋敷を中心に「水塚」という洪水対策の塚が築かれています。それ以前からも柴山沼の内水氾濫への備えとしての水塚を築く家はあったようですが、明治43年(1910)の大水の時に床上までの浸水を経験し、水塚の嵩増しをしたとか、それまでなかった水塚を作ったという聞き取りが得られています。市内では、水塚は築かなくても、納屋の軒下に水害対策として舟を吊るしてある家は現在でも見ることができます。代々語り継がれてきた生活の知恵の一つとして、水との付き合い方が暮らしの中に染み込んでいます。

道具の変遷について見てみます。農耕具は、作物はもちろん、耕す耕地の土の状況、道具を使う人の状況などによって道具も少しずつ変化するといえます。農家側でも道具を選んで使いますし、鍛冶屋に鍬の刃先などについて注文を出したり、自分で工夫したりしていたようです。少し広い視野で比較すると、地域的な特徴がわかりそうです。

職人道具はさらに繊細です。職業によって違うことはもちろんですが、同じ職人がいくつもの道具を使い分けています。例えば、一人の下駄職人がいくつものノコギリやノミを使い分けていたり、一人の紺屋職人が何種類もの「伸子(ハリ)」(染めた反物を干すときに使う両端に針の付いた竹ひご)を使い分けていたりします。こうした道具の違いは、職人の個性と共にその地域の風土や生産される品物の特徴を反映しているのかもしれません。